

AQUA CULTURE NETWORK
ACN REPORT
vol.11 1999.JULY

ACNレポート11号・1999年7月30日発行

発行人 田嶋 猛(ACN代表)

編集 ACN事務局

〒838-0141 福岡県小郡市小郡 1139-1 (株)田中三次郎商店内

TEL0942-73-1111 FAX0942-72-1911

CONTENTS

■第8回種苗生産フォーラム開催案内

ACN 会長 田嶋 猛

■種苗生産速報

1999年8月から1999年7月までの種苗生産動向

ACN 総評

■養殖概況

餌料管理技術の見直しは経営改善のカギ

日清飼料(株)

■防疫概況

生産環境変化に応える種苗

(株)サン・ダイコー

■研究現場

さらに優れたワムシ餌料を追求して

クロレラ工業(株)

■技術紹介

公共事業と施設計画から

ヤンマーディーゼル(株)

■ACNラウンジ ●各社幹部候補生便り ●御案内

一味違うフォーラムの季節がやってきました。第8回種苗生産フォーラム8月19日-20日

熱い交流、燃えるホークス。今年のホークスタウンは満足度120%!

先に御案内致しました通り、今年がフォーラム開催年です。今回も大いに話し、学び、そして飲みましょう。これまで多くの熱意に支えられてきた、私共のもっとも心待ちにしている季節到来へ向け準備を着々と進めております。是非、多くの出会い・研究開発成果・感銘を持ち帰って下さい。

第8回ACN水産種苗フォーラム開催の御案内

ACN会長 田嶋 猛

皆様方にはいつもお世話になっておりお礼申し上げます。

さて、この度十数年にわたり本フォーラムを主催してこられたクロレラ工業株式会社殿から引継ぎましてACNが主催することになりました。

ACNは現在、上野製薬、大阪魚市場、九州積水工業、ヤンマー九州、クロレラ工業、サンダイコー、太平洋貿易、田中三次郎商店、ナテックス、日清飼料、松阪製作所、山一製作所の12社で構成されており結成以来10年目の今年、このような伝統あるフォーラムを主催でき光栄に思います。

ACN主催となりましても、これまでクロレラ工業殿が培ってこられたように「アカデミックさ」と「和やかさ」の両立する会合にしたいと思っております。

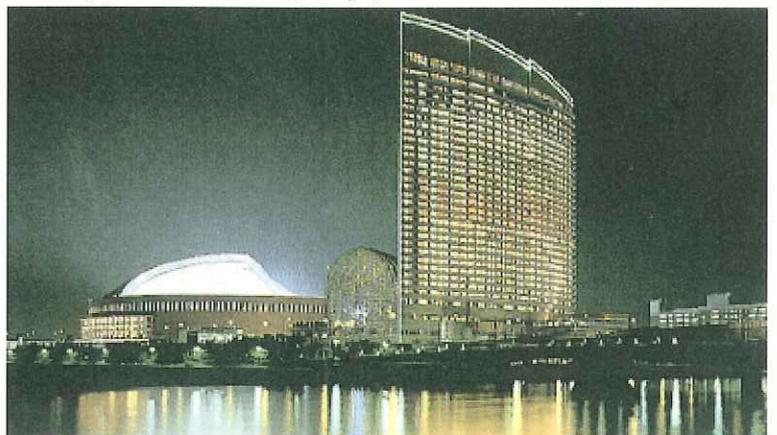
そういう意味合いも込めて今回は講演の質量共に充実させております

阪大微生物研究所の真鍋先生にはイリドウイルスとワクチン、下関市立大学の濱田先生には魚

類養殖と流通、日本栽培漁業協会顧問の本間先生には種苗生産技術の歩みの3大講演を予定しております。

懇親会での同業の方々との情報交換や恒例のジャンケン大会も見逃せません。会場は前回と同じシーホークホテル&リゾートを予定しておりますので小旅行を兼ねてご家族で来られてはいかがでしょうか。

それでは8月19日に皆様とお会いできることを楽しみにしております。



種苗生産速報

1998年8月から1999年7月の種苗生産動向

ACN総評

この1年間における主要な種苗生産魚種を振り返ってみると、乱降下の様相を呈しているようである。しかしそんな中で「特定の銘柄集中」や「バイテク技術」の浸透も進みつつある。〈取り敢えず作れば〉という経営感覚がもはや通用しないことは、この業界にあっては微妙なバランスの上で成り立っているため生産責任者の判断が難しいところであろう。

だが、「品種・質・量のバランスをもった取組みができてきているか」を見直さざるを得ない時代と認識する好機ではなかろうか？ 食品や流通業界まで見据えた養殖業界と一体となった取組みで堅実な経営へ脱却する時代では。

本年度の〈種苗生産フォーラム〉の機会を新たな構築元年として利用いただきたい。

総評

人工種苗の主要魚種であるマダイが2年連続して減産されたため種苗業界にとっては低調な1年間であった中でトラフグだけが予想に反して好調な売れ行きを見せた。

1. マダイ

養殖用種苗尾数は約6500万尾（民間41社・公共4社の推定尾数）であり昨年とはほぼ同じであった。山崎系種苗が完全に定着しており自家親魚もほとんどが山崎系になったようである。必然的に受精卵の売買においても山崎系と指定されてくる。

種苗価格は低下傾向にあり1.0cmまでのサイズで100円～50円/尾まで各社ばらばらであり、取り敢えず作って売れば売れた時代は完全に過去のものとなった。

主役の山崎技研は「昨年苦労しただけに、今年は予定どりの出荷でまあまあシーズンでした」（山崎技研・山崎専務）との事であった。

ここ5年間のマダイ受精卵の販売数量は「1996年度を100とすると1998年度は50%と半減した」（太平洋貿易・浅田専務）との事からも自家親魚を持たない種苗業者がマダイ種苗生産を手控えた事を証明している。

2年連続の減産であったために今年の夏越し種苗の需要動向が注目される場所である。

2. トラフグ

トラフグ養殖業者の多くが2年連続の病気被害のため稚魚購入の意欲も資金もないのではと心配されたが、年初来の中間魚の高騰、成魚不足から来る価格の上昇、マダイ魚価の低迷などが要因となり種苗需要は旺盛であった。

養殖用種苗尾数（中間育成用も含む）は約2200万尾（民間47社・公共2社の推定尾数）であり昨年より増加した。

受精卵としては天然熟卵の需要は相変わらずあるものの、早期種苗の要望が強くなり人工採卵の傾向が一段と強くなってきている。実際に漁場近くで採卵した天然熟卵を入れた業者は約10社しかなく、その比率は「天然卵：人工卵＝5：95」と思われる。

価格的には「3月出荷の早期ものは末端価格130円/尾、その後徐々に下げて7月の最終出荷まで100円/尾で通したが、流通業者からもっと安くしてほしいという声が出た」（長崎種苗・中川場長）のように100円～40円/尾とマダイ同様各社ばらばらの価格であった。

トピックス：日本国内で、陸上養殖用（主としてヒラメ陸上養殖業者）として約100万尾出荷された模様。中国及び韓国でトラフグ養殖が注目されており相当量の受精卵が輸出されたようである。

3・ヒラメ

養殖用種苗尾数は1650万尾（民間40社の推定尾数）で前年比微増したものの相変わらず白化、黒化、奇形魚は発生しており、正常魚生産に手間がかかる割には価格はcm当たり15～7円と割に合わない魚種となってしまった。

年内出荷の超早期種苗がある反面、5月に卵を仕込み7月出荷の種苗が出てくるなど一年中どこかで生産されるようになった。

韓国通貨Wonが1997年秋の水準まで戻り韓国からのヒラメ輸入は落ち着いてきたためヒラメは養殖魚種として安定感を取り戻しつつあり、しかも種苗業者と養殖業者が特定の関係を築きつつあるので新規販売先の開拓は困難となってきている。

トピックス:ここ2～3年成長がいいと評判の種苗はバイオテクによる全雌のようである。

4・シマアジ

300万尾出荷を目指していたマリーン・パレスが55万尾と激減したため養殖用種苗尾数は約230万尾（民間5社・公共2社の推定尾数）となった。価格は当初170円/尾であったがマリーン・パレスの生産不足が確定的となるにしたがって250円/尾が中心相場となった。

トピックス:600円/尾でシマアジ種苗を導入したところもあるとのことにかつて500円以上の価格がしていたことが思い出された。

この1年の種苗生産新潮流

この一年間にニュースや関係誌面の記事となった種苗生産に関連する話題をアトランダムに拾ってみた。

（記事は、『アクアネット』誌より引用させていただいた。）

「養殖ブリの早期産卵に成功」長崎水試

水温調整・ホルモン投与などで2ヶ月早く産卵。

「シマアジ種苗生産」マリーンパレス

ウイルスフリーの親魚づくり。

「クロマグロ・人工孵化飼育記録更新中」近大水産

研究所 孵化後2年11ヶ月35kg110cm。

「ウナギ・人工孵化仔魚の生存期間大幅延長。」

水産庁増養研 孵化後27日間全長10mmまで飼育。

「ワムシ連続培養システム」東大・日野明徳

1m³槽で日産30億個。フロック除去自動培養。

「種苗輸送システム」ヤンマー・室越章

稚魚輸送装置・移送ポンプの開発経過。

「サワラ栽培漁業に着手」香川県・日裁協屋島

漁獲量減少をうけ両者で協力。

「ヘダイ・スズキ。施設稼働率を重視した種苗量産

システム」イタリア アルテミアカプセルを多用。

「深層水、水産分野への応用」海水用科学技術

センター・中島利光 深層水の研究経緯と今後。

「種卵オゾン洗浄装置」荏原実業

専用の低コストオゾン装置発売。

「ムツ量産化へ足がかり」日裁協南伊豆

受精卵150万粒、稚魚300尾。

「クロカンパチ種苗生産好調」沖縄水試

県内自給体制へ、来年度より量産化試験。

「クエ種苗量産化に成功」和歌山県農林水産技

術センター。50万尾が4cmサイズに。

「カンパチ種苗量産技術に取組む」長崎総合水

試 ホルモン処理で大量の受精卵確保。

「オニオコゼ種苗量産化へ着々」岡山水試栽培

漁業センター 親魚養成工夫で良質卵安定確保。

「シラス。回遊回路と時間コンピューター解析」

東大海洋研究所 来シーズンは顕著に回復。

「クロマグロ親魚養成が好調」日裁協奄美

総採卵数1億9,000万個。前年比19倍。

「シラス採取」いらご研究所

フリッピング沖でレプトケファレスを採取。

「フグ寄生虫克服」東大・小川和夫

ヘテロボツリウム症対策。

「提携で種苗生産・研究」近大・瀬戸内漁協

マグロ・マダイ・フグ・シマアジなどに取組む。

「高成長全雌ヒラメ種苗供給」山形屋水産

秋口6～700g。年内kg物今期70万尾。

「ホシガレイの品質評価」近大・安藤正史

死後硬直など有利。食味でも好評価。

「メバル種苗生産に弾み」岡山栽培漁業センタ

ー 稚魚100万尾生産。13mmに成長。

「マダイのクローン化に成功」近大水産研究所

染色体操作による雌作出に成功。5,000尾25cm。

「オニオコゼ種苗安定生産にめど」兵庫栽培セ

ンター 温度調整や餌の配合が奏効。200万個。

官民様々な取組みが明日の水産・養殖・種苗業界にとって無くてはならない技術である。年間多くの研究事例報告を大いにいかして明日の経営に利用したいものである。

養殖概況

餌料管理技術の見直しは、経営改善のカギ。

日清飼料(株)九州水産部 小林 一郎

今日の魚粉供給状況が極めて厳しい環境にあることは前号でも述べた通りだが、EPの評価が定着するのに伴い、餌料構成や給餌率や代謝量から判断した効率などコスト対策へ取り組む積極的な経営姿勢が現れだした。「量の確保」をめざす限りコストダウンの追求は、現場の日々のテーマであろう。

結果的に、消費者への安定供給につながり、信頼される大事なセールスポイントであることを認識したい。「量の確保」も、「質のこだわり」も餌料管理技術の向上が、必須である」ことは論を待たない。

こうした養殖側の現状をどう理解し、協力関係を築いていくか種苗生産側もそれに応える姿勢が求められる。

■生餌の供給状況は依然として不安定でありませんが、カタクチイワシやイカナゴ(輸入物)が、スポット的に供給され、その需要を賄っています。

価格の変動しやすい生餌を節約し、いかに有効に使うかがコストダウンのポイントとなりますが、「魚のサイズ、水温、等の餌料条件に合わせてオイル、マッシュ、EPなどを組合せて餌料の栄養価(タンパク質・脂肪・カロリー量)を調整する試み」が行われるようになりました。徐々にではありますが、「売ってみるまで解らない養殖から計算できる養殖へ」シフトし始めています。

また、稚魚の導入においても、モジャコ(天然魚依存)は例外として種苗の導入量や時期は生産物の相場や見通しから、計画的に実施する業者が増えてきたように感じます。

トラフグ

品薄のため成魚価格が年明けより高騰し、例年にない高値で推移した。これにより生産業者の稚魚の導入意欲は強くなり、他魚種の生産を止めてフグ一本にする業者も見られるなど意気込みが感じられる。しかしながら夏からの白口病、エラ病、白点虫症、やせ病など難病が多いため、魚病対策による歩留まりの向上が目下の最重要課題である。

現場では大切に育て様とするあまり、栄養剤などの添加物を大量・多品種混合するケースを見かけるが、必要な栄養成分はきちんと計算して添加するようにしたい。

以前ほど天然卵採苗物へのこだわりはなくなっ

たと思われる。

マダイ

成魚の在池量もやや減りつつあり、相場も回復傾向にあるが、長く続いた相場の低迷により稚魚の導入はやや控えめである。

イリドウィルス対策を主目的として早朝物や、大きいサイズものを導入する傾向にある。

ハマチ

昨年、一昨年のモジャコ漁の影響により出荷サイズの在池量は少なく、春の中間魚相場も高値で推移した。マダイとは異なり生餌に対する依存度が高いが、前述したように生餌削減によるコストダウンが図られており、また従来の増重量最優先の飼育から、肥満度、尾又長の推移を加味し季節毎の魚の生理特性を生かした飼育管理が普及しつつある。

大切な魚の健康と発育に……

海産種苗用

おとひめシリーズ 海さちシリーズ

日清飼料株式会社

本社	東京都千代田区神田錦町1-25	03-5282-6461
北海道(営)	小樽市手宮1-1-1	0134-34-2363
東部(営)	東京都中央区日本橋ノ網町19-12	03-5641-8017
中部(営)	愛知県知多市北浜町12	0562-31-0251
西部(営)	大阪市淀川区宮原3-5-36	06-6350-6009
九州(営)	福岡市博多区博多駅前3-5-36	092-472-0201
高松(事)	高松市瀬戸内町43-59	0878-31-9768
愛媛(事)	宇和郡御荘町平城米町3913-1	0895-73-1109
佐伯(事)	佐伯市馬場前1-6-30 麻生第一ビル	0972-22-5760
鹿児島(事)	鹿児島市南栄4-24	099-269-1661

研究現場

さらにすぐれたワムシ餌料を追求して。

クロレラ工業(株)開発部 丸山 功

1982年ワムシ生産用の生クロレラ製品を発売して以来、クロレラ細胞にビタミン B12 の強化や DHA の強化など着実な進化でリードするクロレラ工業の最近の取組みは。

HUFA のコントロールや脂肪酸の解明

■弊社は、南九州大学林助教授との共同研究によって、クロレラ細胞への脂肪酸の強化法を開発し、その技術はすでに「スーパー生クロレラ-V12」として実用化されています。

本研究開発によって、クロレラ細胞に EPA や DHA などの高度不飽和脂肪酸(HUFA)を任意のレベルにコントロールすることが可能になりました。

また、強化した脂肪酸はトリグリセライドとして細胞内油滴中に存在し、一部は極性脂質として脂肪質に取り込まれていることが明らかになりました。

この様に、クロレラが本来持っている細胞内成分の一部として存在するため、ワムシ餌料としての有効性も高く、海産稚魚にも効果的に利用されると考えられます。

ビタミン E・カロチンの応用

■海産仔稚魚の栄養として HUFA だけではなく、ビタミン E やカロチンなどの成分も重要です。

ビタミン E は餌料の HUFA 含量が高い時はその要求量が高まることが知られていますが、カロチンは仔稚魚の免疫を高める効果が報告されています。

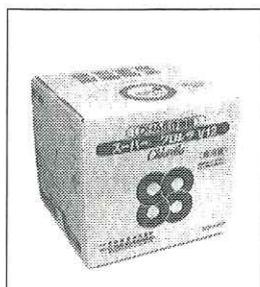
既に当社はこれらの成分のクロレラ細胞への強化法の開発にも成功しており、今後その有効性について検討を進める予定です。

HUFA 成分制御による飼育実験

■HUFA 等の脂肪内成分を制御したクロレラを用いてワムシを生産することによって HUFA 等の成分が安定したワムシを得ることができ、HUFA 等の成分を制御したクロレラは海産仔稚魚の栄養要求を探る為の道具としてもすぐれています。

現在、公的機関と共同で成分制御したクロレラを用いた海産仔稚魚の飼育実験を実施しており、この様な研究を通じて、海産仔稚魚に対しさらに優れた成分を持ったクロレラの開発が可能になると考えています。

スーパー生クロレラ V-12



■**昨年の発売開始以来、多くの支持を得ております。**

昨年 10 月発売を開始して、現在まで国内で官民併せて 100 数社で採用頂き、又海外においても韓国、ギリシャ、スペインなどでもご利用されております。

「スーパー生クロレラ V12」だけの栄養強化で好結果が得られた魚種もヒラメ・トラフグ・マダイ・シマアジ・オコゼ・カサゴ・ノコギリガザミ・カニアユの一部分と多種にわたっております。

「活力ワムシの稚魚直接給餌ができる」「歩留まりが良い」「環境水に使用して最適」など種苗生産に欠かせない商品として評価をいただくようになりました。

厚くお礼申し上げます共に、引き続きご愛顧の程よろしく願いいたします。

お問い合わせ **クロレラ工業(株)開発部 技術特販室** TEL0942-52-2191 フリーダイヤル 0120-39-9603

防疫概況

生産環境変化に応える種苗

(株)サン・ダイコー 営業企画部 山村友宏

全般に病勢弱く比較的静穏に推移しているようである。

また生産者側の意識や取組みに事前の対策が浸透しつつあり、マーケットの動向に対応している意欲が、防疫面の情報からも伺える。生産量や、転換魚種の決め手として防疫の近況報告は貴重であり、高水温期以降の動静も気になる場所である。

『強い魚体づくり』この課題にどう応えていくか、自信をもって供給していきたいものである。

■昨年より水産養殖皆様の意識が、HACCPの影響でしょうか「魚病対策の目的は、病気を発生させないこと」に変化しつつあります。

治療薬としての抗菌剤投与を極力控え、代わりに稚魚導入前の底質改良材散布やワクチン使用など増加傾向にあります。

ワクチンについては、皆様の要望の高かったマダイイリドウイルスワクチンが5月に田辺製薬(株)から売り出され、又共立商事(株)のブリ用連鎖球菌ワクチンも発売以来着実に拡大し、水産養殖に定着したようです。

栄養剤や強肝剤、免疫賦活剤といった製品の使用も増加しており、これらの製品と水産用医薬品の組合せにより「魚病を発生させない強い魚体づくり」に生産者皆様の目が向いています。

これからの水産養殖のキーワードは『安心・安全な魚作り』。天然魚と養殖魚のボーダーレス時代であり、消費者のニーズは安全性です。

養殖業者の皆様は、さらに選り良い『良質な種苗』を望んでいます。

今後も、種苗生産担当皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

2 オハマチ・カンパチ

2月上旬の水温低下と共に連鎖球菌症終息。

その後は大きな斃死も見られず順調に推移。4月に入り大きな水温変化が見られ、ストレスが心配されましたが、ビブリオ病(OTC+++）・連鎖の病勢弱く(EM+++)、増体は良好である。但し、例年に比べハダ虫の付着は多い。魚の体力が弱いのか…。いずれにしても、病気に対して予断を許さない時期に入ったといえます。

カンパチ稚魚

香港において1月下旬より採捕開始。2月下旬以降、現地の海水温は26~27℃に上昇、イリド発生水温域に入りました。国内への導入は1月末から開始され、2月下旬~3月上旬が多かったようです。4月中旬、滑走細菌症やビブリオ病が若干見られましたが、例年に比べ、大量斃死も見られず順調です。尚、血管内吸虫は多く、5月下旬(水温23℃)には類結節症発生、ABPCに若干の耐性が見られました。又、腎臓肥大が増加しています。

モジャコ

各県、昨年より数日早くスタート。解禁当初は不漁で心配もされましたが、再延長期間に五島沖、対馬・島根沖、和歌山・徳島方面での採捕が事態を好転させました。

又、韓国の在庫もある程度見こまれます。今後全国に補充されていくと予想されます。

5月下旬(水温23℃)類結発生 APBC+++、ビブリオ・腹水合併。6月中旬(水温24℃)イリド発生。

2 オトラフグ・シマアジ

トラフグは昨年、白点病や口白症被害で歩留まりが悪化し(前年比3~4割ダウン)、増体も悪かった。3月下旬より、黄疸症も見られ体力低下のためかスレが多く斃死が見られた。

シマアジも昨年イリド感染症の被害大きく、低水温期に入っても、シュードモナス症が確認されました。しかし、両者とも今年モジャコ業者からの転換導入人気高の魚種といえます。

今年は水温が低めに推移、歩留まり重視の薄飼いで稚魚は順調に生育しています。

新技術紹介

公共事業と施設計画から。

ヤンマーディーゼル(株)

海洋設備グループ・システム設計室

公共事業の中で、種苗生産をテーマとして日々取り組んでいるチームが日頃感じていることは、案外身近な課題でもあり、経営のヒントを示唆してくれるかも知れない。

コーナーの主題とは、趣が異なるかもしれないが自社の整備計画の一助になれば。

■今回、「研究現場」報告の代打要員として登場させて頂いたが、次回の研究員報告まで、気軽に前座を勤めさせてもらいますので、そのつもりでお付き合いの程お願い申し上げます。

■まず私共の仕事からご紹介させていただきますと、前線部隊の後方支援組織であり、時には予算調整や情報分析も行い、前線基地に提案していく影の軍団であります。(オイオイ!影の軍団が、気軽に前座をつとめるかよ。)

技術支援が10年前に1名で始まり、現在5名。この間、北海道から沖縄までの案件に従軍してきました。寒さ暑さを厭わぬ戦士も、このところ話題は人間の症例対策となっており、世間で評判の「ウイルスワクチン効果」の成り行きにわが身を重ねるスタッフの出る始末。

ともあれ、前線基地は9割がた「公共事業」に集中しているので皆様方とは、近くて遠い存在かもしれません。但し、テーマのほとんどが『種苗生産』であり、『ACN』に行き交う情報に注目せざるを得ない存在でもあります。

■「少しでも、皆様の現場に御役に立つ情報を」と思いつつ、いざ書くとするとささやかな経験と守秘義務の狭間でもがき苦しんでおります。

さて前述致しました通り、種苗生産をメインテーマに設備機能や適性配置、建物との関わりなどコツコツやっているの訳でして、公共施設の持つ役割は水産振興以外のなにものでもないのですが、そんな中でも技術の先進性や施設の考え方はいくらかお役に立ちそうですのでご紹介したいと思います。

(前段で、文字数稼いですみません。)

■『施設の開放性』

何やら、難しく聞こえますがここ数年この考え方を提案していくと、好意的な評価が得られているようです。「地域や業界との交流をより緊密に築き上げていこうじゃないか。」ということでしょうか。痛感しておられる通り、官民一体となった取り組みこそが水産業進展の前提であ

ることはいうまでも有りません。

これから「今こそ、情報交換しよう近場の試験場」と声を大にして申し上げておきます。

■生産性と省力化。

公共の施設計画や設備整備などにおいて、民間のそれと違う面を考えて見ますと生産のプロセスは、当然のことながら同じな訳ですが、求められるオーダーの違い(放流事業)から、現場担当サイドは勢い生産性を見込める設備や、いくつもの役がこなせる設備へとならざるを得ない立場に立たされます。

そこに、初期餌料の濃縮・培養を自動で行い、さらに供給のプログラム化に自動掃除や稚魚への自動給餌へと進むことになります。

異論の向きは有るでしょうが、二次産業ともいえる種苗生産現場にあっては、装置化していく側面も当然と言えるのではないのでしょうか。リニューアル化した施設を一度のぞいてみて下さい。

■最後に

その海と取組む限り、「環境対策」は避けて通れない命題ではないのでしょうか?

公共施設にあっても、この面での整備は極めて遅れています。「取合えず」という施設計画にがっかりすること度々ですが、「排水処理」こそ、生産性の重点課題といえる環境にできてしまっている気がします。受け継いできた財産を、21世紀を担う子供たちに胸を張って渡していくことは綺麗ごとでもなんでもない当然の仕事ではないのでしょうか。

森林の恵みを受けながら営む漁業を教えられる時代となった今、『防疫管理は前浜から』という意気込みで、是非取り組んでほしいものです。

取止めのない話で貴重な紙面をお借りいたしました。又の機会に、具体的設備に関してお話できればと思います。

ご意見営業サイドにどしどしお寄せ下さい。

各社幹部候補生便り…?

- 「今や養殖も情報の時代。いろいろな情報がございますのでご希望の方は、遠慮なくACN各社にお問い合わせ下さい。尚、各社担当者の【秘】データにつきましては私まで。」

(株)田中三次郎商店 大久保

*ACNウォッチャーの声…「秘」データを宴席でどう生かせるかで大幹部は近いが、さらに裏技が必要じゃっど。

- 太平洋貿易(株)ニューフェイス

鶴田 はるみ (H11.3入社) デリバリー業務で元気に対応、クレーム処理お任せ!

張 雄偉 (H11.4入社) 日中間の冷凍食品開発業務に従事。当社の改革を担当していきます。

*ACNウォッチャーの声…代表の限界説や院政説など囁かれる中、大陸への進出は予想された路線か。

- 「お客様の筏に例年通り稚魚が導入され、忙しくなってきました。今年は水温が例年と比べて低く推移しているためか、飼育の方は順調そうです。これから夏に向かって我々技術屋の仕事も多くなります。気を引き締めて巡回していこうと思います。各地区を定期的に巡回していますので見かけた際はお気軽にお声をお掛けください。」

日清飼料(株)小林

*ACNウォッチャーの声…いいですね!筏巡りの情景が目浮かぶようです。社風にも人格にも品が感じられます。

聞きようによってはNHKラジオ「ひるの憩い・農事通信員便り」になってしまいますが、部長のキャラで

その辺りが払拭されているところが絶妙といえるでしょう。

- 「第8回水産種苗フォーラムよりACNが主催となり、これまでとは一味違った形の講演・展示会が期待できます。皆様の御参加で、より一層益々盛大なフォーラムとなりますようご協力お願いします。」

クロレラ工業(株)フジキ匿名

*ACNウォッチャーの声…さりげない一言の中に、一抹の寂しさと世間に不肖の息子を送り出す母親の想いが伝わってくるようで、ふと見ると担当者ではなく匿名としたためられているあたりも複雑な心境が。

- 「大変遅くなりまして申し訳ありません。取合えず挨拶だけにしときます。『ヤンマーで働いているマー坊(松元)です。よろしくお願ひします。』短いけどお願ひします。」

ヤンマー九州(株)松元

*ACNウォッチャーの声…「ったく!せっかくいい所に、これじゃ酒屋の御用聞きじゃねえか!」、「お前さん、マー坊は、あれでかわいい所あるんだから男も愛敬の世の中だよ」、「冗談じゃねーや!これじゃ豆腐の角に頭ぶつけて仏になった方がましじゃねえか!」、「だから、本人も取り敢えずと断っているんだから……」

暑中お見舞い申し上げます。

2年に一度の勉強と交換会にACN一同心よりご来場をお待ちしております。

■ACN 種苗生産フォーラムプログラム

8月19日(木)

10:00より受付

13:00 開会挨拶 ACN会長 田嶋 猛

13:10 来賓挨拶 湊文社 池田 成己社長

14:20 講演 (財)阪大微生物研究会真鍋貞夫課長

15:00 講演 下関市立大学 濱田英次教授

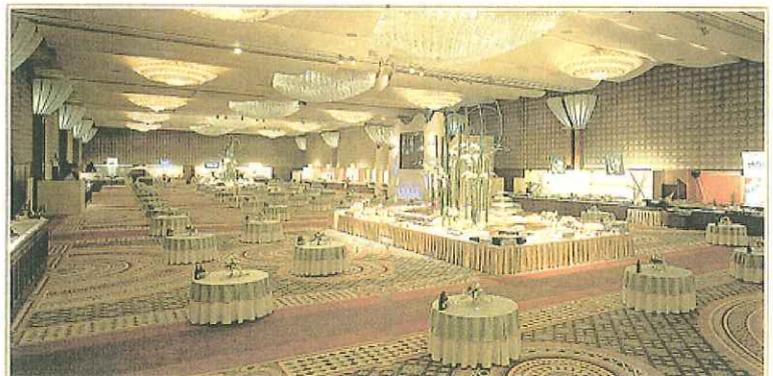
16:30 講演 (社)日本栽培漁業協会 本間昭朗顧問

18:00 質疑

18:15 閉会 ACN副会長 福田 功一

18:30 懇親会

8月20日(金) 9:00~11:30 展示会



上野製薬(株) 大阪魚市場(株) クロレラ工業(株) 九州積水工業(株) ヤンマー九州(株)

(株)サン・ダイコー 太平洋貿易(株) (株)田中三次郎商店 ナテックス(株) 日清飼料(株)

(有)松阪製作所 (株)山一製作所

以上ACN会員企業12社で主催致します。